

# 「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

## 会報 No.14 ( March 2007 )



KIFAクリスマス会にて (2006年12月10日)

### Contents

☆ 会長のことば：藤田美保、	☆ 蟹江町長のことば：横江淳一	2
☆ 2006年度実施の定例行事一覧		2
☆ 「どんな陰より涼しいものはブツダの教えである」大隅良務		3
☆ 「日本語教室の受講生からの手紙」単明哲、陳厚平、尹銘遠		4
☆ 「ベトナム旅行記」八神里美、		5,6
☆ 「アオザイによせて」岡春代、	☆ 「カンボジア旅行は体力と脚力」	7
☆ 「国際交流関連講演会」報告 / 中西久子、	☆ イベントスナップ写真	8
☆ 「Communicating in English - Katakana English」ジョン山本		9
☆ 「ミャンマーの小学校と子供達への支援について」磯部正弘		10
☆ 「イベントに参加して」山田初美、「団塊の世代、諸君！来たれ」若山高、		11
☆ 「日本語教室ボランティアをして」深山加代子		11
☆ 世界の国旗、2007年度行事予定、企業・賛助会員一覧、編集後記		裏表紙

会長 藤田美保



毎年会報のここに何を  
書くか迷って、結局原稿は  
印刷所に出す前日ぎりぎり  
になってしまう。今年もそ  
うなったが、”国際交流関  
連”ではまとまらず、苦肉の  
策? でかつての英国滞在中  
に気付いたささいなことな

どを随筆風に書いてみようと思った。ちょうど  
その時NHKテレビでは中国内の所得格差に関  
する番組を放映していた。

1日で1億円稼ぐ投資家に代表される富人  
と、1年でやっと10万円の農民工(出稼ぎ農  
民)、そして孫の靴を買うための、たった150  
円の現金に窮するその祖父母、かれらの生活の  
対比を描いていた。はたして将来、この中国で  
の貧富層間の調和(富の分配:格差の是正)が  
あり得るのかとこの番組は問うていた。

確かに中国は国全体として富んで来ている  
が、「政治」は共産主義、「経済」は極端な資本  
主義という体制では非常に大きな歪みがあり、  
このままでは調和どころか体制の破綻もあり得  
るのではと、私は懐疑的な感想を持つのです  
が....

同時に、あのような中国の内陸農村部の人達  
の窮状を見ると、日本での中国人の、いわゆる  
「不法就労」も多少大目に見てはと感傷的にな  
る。グローバルなワークシェアリングというこ  
とは考えられないだろうか?

町長 横江淳一



KIFAの皆様におかれま  
しては、日頃から地域の国  
際交流にご尽力いただき、  
心から敬意を表するととも  
に厚くお礼申し上げます。

さて、愛知県は「愛・地球  
博」の開催や中部国際空港  
の開港などを経て、名古屋

駅前に新たな商業施設が建設されるなど、ます  
ます盛り上がりを見せています。国際的な物・  
人の流れの大きな変化にともない、日常生活で  
の「外国」にふれる機会は、「愛・地球博」で終  
わることなく、増え続けているのではないで  
しょうか。

蟹江町をはじめ、町周辺には多くの外国人の  
かたが住んでいます。KIFAについては町界を  
越えて近隣市町村の外国人の皆さんとの交流を  
深めるなど、地域の国際交流のさきがけとして  
の役割を果たしていただいております。今後は、  
国際交流促進のほかにもさらに活動を広げ、町  
の国際化、国際協力の面でも行政と協働し積極  
的に取り組んでいただきたいと考えております。  
外国人と日本人の住民が共に住みやすいと思え  
るようなまちづくりを一緒にしていきましょう。

最後になりましたが、今後も地域レベルの国  
際交流活動の中核として、ますます発展されま  
すようご祈念申し上げ、また会員の皆さまのご  
健勝を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせて  
いただきます。

2006 年度実施の定例行事一覧

開催日	行事内容
2006年	
4月 16日 (日)	総会・パーティー (公民館分館)
6月 11日 (日)	親善ボウリング大会 (カニエボウル)
8月 13日 (日)	町民夏祭り出店 (創郷公園)
10月 7日 (土)	町民秋祭り出店 (町役場前)
8日 (日)	同上
12月 10日 (日)	クリスマスパーティー (源オコミュニティセンター)
2007年	
2月 17日 (土)	国際交流関連講演会&料理(メキシコの話と料理試食)

「どんな陰より涼しいものはブツダの教えである。」

大隅良務（法応寺）

**蟹**江町内の法応寺で、11月19日の午前10時からビルマ仏教の『シンピュ・ボエ』（出家得度「沙弥式」）を執り行いました。

日本人と結婚して町内に住むミャンマー女性ミヤ・ミヤ・ムー（上山まり）さんの息子将昇君（中学二年生）が得度をしますのです。ミャンマーの男の子は6歳から16歳の間に出家して、十戒を守る沙弥（見習い僧）となり僧院に生活する習慣があります。このミャンマー仏教の伝統的習慣を、是非とも息子に体験させたいということが母親のミヤ・ミヤ・ムーさんの願いでした。愛知県内に暮らすミャンマー人が、5年前に心のよりどころとして創った名古屋ミャンマー寺に、ミャンマー僧が滞在していることを知り、長年の夢を実現させました。

法応寺本堂にミャンマー寺から運んだ金色ブツダ像を安置しました。ミャンマー寺のアシン・ウ・ティロカ和尚をお招きし、留学生・研修医ら滞在しているミャンマー人、かえ国際交流友の会々員、法応寺檀信徒、そして、僧侶の村下さん、稲田さんとパーリ語を学んでおられる畔柳さんらの見守る中で執り行われました。

午前の「沙弥式」は、和尚のミャンマー語のお言葉



ビルマ仏教『シンピュ・ボエ』得度・剃髪。

君は復唱するというやり方で始まりました。最初は剃髪、和尚が彼の髪を剃り、それを両親はタオルで受けます。その後、彼は足裏を床につけたまま踵をあげずにかがむ姿勢で、和尚の前で法衣を捧げ持ち「法衣をお取りください、私を出家させてください」と三度唱えて衣を和尚に渡し、「法衣をお与えください」と三度唱えると和尚は衣を投げ

置き、それを彼は捧げて出家のお許しを請う言葉を三度唱えます。和尚は黙ったままで、将昇君は出家を許されます。彼は別室で衣に着替え、再び和尚の前に進み、仏法僧の三宝への帰依文を復唱、十の沙弥戒を授けられて沙弥となった彼は和尚に教えを請い、ブンニヤナンダ（パーリ語で「幸せを招く」と云う意味）というお坊さんの名が授けられました。

その後、和尚と参加者一同に、彼女と友人らにより用意された三種類のミャンマー料理とデザートが

供養され、午後は、和尚からビルマ仏教についてのお話をいただきました。

国に帰ることがなかなか叶わない母親は日本の地で、息子が仏教徒でありミャンマー人である誇りを持つためのたいせつな儀式ができた喜びを、涙しながら参加者に語りました。



『シンピュ・ボエ』法応寺本堂内にて（後姿のアシン・ウ・ティロカ和尚）。

私はこの儀式に、私たちの仏教との違いを見ようとしていました。しかし、それは間違いで、仏教は異なるはずはなく、日本の仏教が変わってしまっているのだと気付かされました。ミャンマーの人たちの、日常の暮しに根付いた生きた仏教のかたちと、仏教に対する深い思いをみることでできたことに大きな喜びを覚えました。



和尚、将昇君そして両親（右）

2006年11月19日  
家族の特別な記念日に  
みなさま、ご協力してくれて  
感謝のお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました  
၈၅၂၂၁၅၅၅:၉၅၂၀၆၅၂၀၆၅၅  
上山ファミリー

（上山さんからのお礼状、赤字文はミャンマー語）

## 「国際交流をもっと深めよう」

単明哲

去年、わたしの友人が日本語を勉強するため、KIFAの火曜日クラスに参加しましたので、私も興味をもって一緒に入りました。



私は昔、日本に留学した事があります。ある程度の日本語を話せます。普段の生活には困っていないのですからもう勉強しなくてもいいのではないかと思っていました。しかし、実際クラスに入ってみたら、自分はまだまだ勉強すべきことがいっぱいあると感じました。先生達は熱心であることなく教えている姿を見ると、自分をもっと日本語の勉強をしなければならないと思いました。

このクラスのもう一ついいところはたくさんの方と出会えることです。私はここで初めてブラジルのお友達が出来ました。そして、初めてブラジル料理を食べました。

豆を使った料理でとてもおいしかったです。私はこれがきっかけでブラジルのことにも興味を持つようになりました。自分の世界がもっと広くなりました。

KIFAの先生達に心から感謝します。KIFAみたいなグループがたくさんあることによって日本人と外国人の交流がもっともって深まると思います。

←単さんの直筆原稿



単明哲 中目

## 「日本語教室で勉強中」

陳厚平

2007年1月12日から日本語教室に来て、今日は3回目です。2004年9月日本に来てずっと日本語教室をさがしていました。やっと見つかりました。ここに来て先生たちはていねいに日本語を教えてください。本当にありがとうございます。

これから他の皆さんとともに日本語を勉強しようと思っています。よろしくおねがいします。

私は日本料理は大好きです。常に自分で作ってみたけどなかなかおいしい味が出来ませんでした。チャンスがあれば是非おいしい料理の作り方を教えてください。

## 「日本語検定試験合格」のお礼

尹銘遠



2005年6月中国山東省から日本へ来た尹銘遠です。28才で三洋化成に勤めています。2006年12月3日、日本語2級検定試験を受け、日本語教室の先生のご指導の元、試験合格いただきました。試験は文字・文法は良かったけど聴解はとても難しかったです。タイやベトナム、ブラジル、ヨーロッパ人もたくさんいました。これからも頑張って勉強します。感謝の気持ちでいっぱいです。

シェイシェイ!!

注) 上記3人の方は「日本語しゃべろう会」クラスの生徒さんです。原稿にはほんの少し手が入れてありますが、ほぼご本人が書かれた原文のままです。

## KIFA日本語教室「日本語しゃべろう会」の案内

★火曜日クラス：毎週火曜日、10:30 - 12:00  
蟹江児童館(蟹江中学校の西隣り)  
連絡先(担当):川崎直子、TEL/0567-96-3394

★土曜日クラス：毎週土曜日、19:30 - 21:00  
中央公民館  
連絡先(担当):八神里美、TEL/0567-95-0307

お知り合いの外国人の方達に上記教室があることを教えてあげてください(もちろん無料です!!)。これらの教室では日本語講師のボランティアも募集しています。関心のある方、上記の役員までご連絡下さい。

参加者：4名（八神、岡、武藤、石橋）  
 日程：平成18年8月21日（月）～25日（金）  
 宿泊先：「レジェンドホテル サイゴン」  
 滞在先：ホーチミン市、その他  
 通貨レート：10,000 UND = 70円  
 時 差：2時間



中央郵便局

8月21日（月）

11:00 中部国際空港出発

14:45 ホーチミンシティタンソニャット空港に到着。タオさんとピンさんが出迎えてくれた。2人とも元気そう。再会を喜び合う。

ホテル「レジェンドホテル サイゴン」へ。気温36℃。タンソニャット空港からホーチミン市へは、車で移動。街の所々には、まだベトナム戦争の傷跡が…。

17:00 ロビーにて、タオさんと簡単な打合せ後に市内観光。「Phuong Giang」（アオザイ：ベトナムの民族衣装）の店でアオザイとワンピースを購入。夕方のホーチミン市を散策、ベトナム料理のレストランで食事。ベトナムビール「333」で、タオさん、ピンさんとの再会に乾杯！どこもバイクの多さにびっくり！自転車も多い。車はそれらを避けながら走る？！人が横断するときのコツは、ゆっくり渡ること！ゆっくり歩けばバイクがよけてくれる！

ホテルでの出来事：宿泊フロアーのエレベーター前エントランスには机が置いてある。その上にリングが数個おいてありエレベーターを利用するたびに、私たちの間にちょっとした話題になった。リングが減ったり増えたりする。あとでわかったことだが、どうやらサービスとして置いてあるようだ。新しく宿泊客があると減っている。

8月22日（火）

9:30 市内観光で統一会堂、教会（建物が美しい！）、中央郵便局。統一会堂：ハノイ陥落まで、実際に執務、居住していた場所。私的居住空間や会議室、会議終了後の食事をとる部屋、応接室、漆の部屋などがそのままの状態で見学されている。特に、3階テラスにはハノイから脱出するためのヘリコプターが置いてある。また地下には、作戦指令の部屋もあり、つ



統一会堂

い40年前実際に戦闘があった当時を生々しく感じさせてくれる。改めて平和な日本に感謝。教会：マリア像が前庭に設置され、とても美しい建物。中央郵便：ステンドグラスが美しい建物。旅行者は、ほとんどここを訪れる。記念に日本へポストカードを郵送。

12:00 昼食：「フォ24」（フォー専門店）。チョロン市場見学、ショッピングで値引き交渉を試みる。交渉成立！「HUYEN」（お土産屋）でショッピング。店には、日本語が話せるベトナム人が居て、日本語で対応してくれる。コーヒーなどの飲物とベトナムのお菓子のサービス。

19:00 夕食：Am Restaurant（やぎ肉レストラン）。やもりが壁に数匹居るなどと思ったら、急に暗くなり突然のスコール！あいにく私たちの席は、テラスだったため雨がふりかかる。大急ぎでコップを持って席を移動！！「キュー」（やぎの焼き肉）：ベトナムで人気の鍋料理、ヤギのおっぱいの肉は、こりこりしておいしかった。ヤギ肉の鍋は、コラーゲンたっぷり女性にお勧め！

20:40 ホテルへ、

8月23日（水）

10:00 メコン河クルーズへ出発 途中、蓮の群生地があり、記念の写真撮影をする。

12:00 昼食レストランにて（ぞうの耳のフィッシュ：メイン料理）急に暗くなったと思ったら、激しいスコール。スコールが止んだあと、虹がむこうの空に…。隣にヨーロッパ人のグループ。

どうやらフランス人らしい。

13:10 出発・メコン河デルタに到着。メコン河はとても大きく広い。そして河の色は、赤味を帯びた土の色。肥沃な大地から流出したとか。東南ア



メコン河（先頭から  
岡さん、八神さん）

ジアでも有数な穀倉地帯に圧倒される。ベトナムの女性があやつる小舟で島「THOISON4」に渡る。とてもやさしそう！島内一周観光蜂蜜屋さんで休憩。蜂蜜の試飲、お菓子の試食。樹木が生い茂る中の小道を

すすむ。みやげもの屋さんで物色。さらにすすむと、休憩できる果樹園で果物の食べ放題。途中、家族総出の民族音楽のパフォーマンスがあり、「上を向いて歩こう」の演奏もあった。

島の中を、小川が走る。その中を手こぎの小舟で進む。川幅は狭く、小舟すれ違うのがやっど。両サイドには樹木が生い茂り、枝が頭や身体にあたりそう。おもわず首をひっこめてあちこち観察。鳥が庭に放し飼いで、子供たちは元気に走り回っている。地面は、水面すれすれで、増水すれば水没するのでは？と危惧しきり。この島に2~3日でも滞在すれば、心身共にゆったりした状態で居られそう！

17:00 ホテル着。ロビーでリンさんと打合せ。(24日のツアーのガイド役。タオさんが都合悪くて、そのピンチヒッター。リンさんは、タオさんの友達。研修生として日本語を勉強。帰国後日本人相手のガイドとして活躍中)。アオザイが届く。日本人はアオザイを試着。ベトナム人のタオさんは、浴衣を着用。ホテル内で一緒に記念写真。

19:00 アオザイ姿の日本人と浴衣姿のベトナム人、連れだって市内を散策。タオさんの浴衣姿に道行く人々が振り向く。市役所前で記念写真。ホーチミンさんの像や噴水があり、市民や観光客の憩いの場所。



8月24日(木)

9:10 国営百貨店を見学。いろいろな店が入っている。最初に国営百貨店で物の値段を調べてから、市内の店で買い物をすれば失敗は無い。スーパーマーケットで食料品のショッピング。

11:10 ホテルをチェックアウト。

12:00 リンさんと出発。昼食：ホーチミン市で有名なレストランでランチ。飲物・フォー・メイン料理。途中ハノイの「バク」さんから電話が入る。とても元気そう！バクさんは仕事でホーチミン市に来ることができず残念。「MINH SANG PLAZA」(ベトナム陶磁器の店)を見学して記念にコーヒーカップを購入(日本円で350円!)。ホテルにもどる途中、タクシーの運転手さんが交通違反(ベトナム人の平均月収は、約15,000円。反則金は、7,000円!)。「ベトナムぜんざい」を食べる。私が選んだのは、「はすのぜんざい」(氷の下にはすの実が入ったぜんざい)。冷たくて

とても心地よかった。タオさんと合流。「Miss Aodai」(お土産屋)で夕食まで見学と小物類の物色。

20:00 ホテル着。リンさんとお別れ。リンさんの一言：「研修生として来日。藤原町の部品会社に2年間滞在。会社の寮では女性ばかりで、とても騒々しかった。日本に来たのは、日本人はしゃべる時小声でしゃべり、とても静かで、やさしく、日本人に好感が持てたので…。」

21:10 ホテル出発。タンソンニャット空港へタオさんが見

送り。

8月25日(金)

0:15 ベトナムホーチミン市出発し日本へ。

今回の旅行では、タオさんにずいぶんお世話になった。日本人旅行客の中に、アジアの人に対し理不尽な要求、行動をとる人の存在を耳にした。同じ日本人でありながらとても残念。そんななかで、今回の旅行は随所に親切で心配りのゆきとどいた日程及び内容だった。あらためて感謝すると共に、私にとって「国際交流」とは？と問い直す機会となった。ともあれタオさん、ピンさん、リンさん ありがとう！！

## 「アオザイによせて」

岡春代（土曜日クラス講師）

日本を発つ前に4人で、この旅行の思い出に「自分だけのアオザイを作らしましょう」ということになりました。ホテルに着くと、早速アオザイを着た女性に迎えてもらいました。その清楚でしなやかな姿に、私はニンマリとなりました。タオさんの案内で入ったお店は、それほど大きくありませんが、カラフルな生地が壁一面に並べてありとても明るい店内でした。日本語のできるスタッフがいて、私たちがそれぞれ選んだ生地を胸にあてて鏡に映すと「これ いいよ!」「とても似合う!」「美しい!」と誰にでもこの三つの言葉で商売していました。

私は元来、物を買う時ずいぶん悩むタイプで、アオザイを買う時もそうならないようにと、日本で色は藤色と決めてありました。がしかし、私の思うような藤色がなくまたあれこれ悩んだ末、灰色に決め



アオザイ着用  
(浴衣姿はタオさん)

ました。生地が決まれば、次は採寸です。とても念入りに、全体にきつめ、おなかも少し引っ込め気味で測っていきます。ボン、キュッ、ボンのシルエットを出すためだそうです。さあ、三日後の完成が楽しみです。

後で知ったのですが、白いアオザイは学生の印。花嫁さんは真紅のアオザイ。年配の人、喪服は灰色だそうです。私は一瞬「失敗したかなあ」と思いましたが、そんなことも4人で大笑いです。アオザイが出来上がるまで、市内観光、ショッピング、グルメを楽しみました。

旅の最後、お世話になったタオさんとの感謝とお別れのディナーに、出来上がったばかりのアオザイを着て行きました。この新調したアオザイが多少苦しく感じたのは、ベトナム料理がとてもおいしかったからでしょう。

## 「カンボジア旅行は体力と脚力!」

谷中ひさ子

カンボジアへ出かける前「カンボジア」といえば、ポル・ポト政権の後遺症は?地雷は?とっていました。「アンコール遺跡の街」シェムリアップに到着し、高級リゾートホテルなどが建ち並び、ネオン輝く街並みに心配は一掃です。また、その晩のクメール料理は香辛料も強く、この先大丈夫かしら?の心配は、果物の美味しさが救ってくれました。

まずは、インドシナ最大の湖であるトンレサップ湖へクルーズ。湖の面積は乾期3000km<sup>2</sup>、雨季はその約三倍になるそうで、その差には驚かされます。約300万人が湖上で生活をしているとか、季節で深さの変わる湖の中を家ごと移動することが理に叶っている事なのでしょう。湖上には学校や病院もあります。日本の援助で建てられた学校もありました。ここで生まれた赤ちゃんは水の上に建つ家で育つのですから、「水の側で遊ばない」なんて言葉は通用しません。

世界遺産のアンコール遺跡はアジア最大の石造寺院アンコール・ワットを中心に1000を超える石造

建築の大遺跡群です。9世紀から600年間にわたり、巨大国家アンコール王国により築かれたものです。美しい女神像「東洋のモナリザ」のあるパンテアイ・スレイ、四面仏が刻まれたバイヨン寺院のアンコール



急勾配階段の  
アンコール・ワット

ル・トム、成長の早いスアポンの木が寺院に覆いかぶさっているタ・プローム寺院、そして東西1500m、南北1300m、幅200mの濠で囲まれ、高さ65mの尖塔があるアンコール・ワット、これらを見て回るのは体力、脚力に加え、急勾配で段の幅が狭い階段を登り降りする勇気が必要、と知りました。乾季で蒸し暑くなくても、汗、汗、汗。また、どこに行っても物売りの子供たちがTシャツ、ポストカードなどを売るため付いてくるのは悲しくて困りました。

帰ってから偶然見たテレビ番組で、石澤良昭上智大学学長が、まだ学生の頃からアンコール遺跡と深く関わり、現在も国際調査団団長として遺跡保護に努めてみえるのを知り、とても誇らしく、これからもアンコール遺跡に関心を持って見ていこうと思います。

**数**学教師の山岸郁子さんは高校教諭の時、JICAボランティアでメキシコに派遣されました。2000年10月から2002年10月までの2年間でした。丁度その頃ご主人が退職され、ご夫婦でメキシコに渡られました。派遣先はメキシコシティから60kmほどのトルーカ。海拔2600mの高地で夏でも汗をかくことがないばかりか、1日のなかに四季があるといわれ、朝夕はショールがいるほどだったそうです。

学校は中学で、生徒数が多いため二部制で、数学教育方法の指導をされました。学校には時計がなく先生も生徒も時間にはルーズで、始業の鐘がなってもすぐには始まりません。早速申請を出し、掛時計を16個設置してもらいましたが、すぐに盗まれてしまい、また鐘のチャイムに戻ってしまいました。現地の諺に、“早起きしても夜が早く明けるわけではない”と言うようで、ゆっくやりますよ。良くも悪くもこれがメキシコ流なのです。

郁子先生が学校に勤めている間、ご主人は学内で理科の実験などで生徒と交流されたこともあったそうです。授業ではないので生徒たちの表情はとても楽しそうで、このような交流も素晴らしいことだと思いました。当時

の様子を、NHKの郁子先生のメキシコ滞在を写したビデオを見ながらでしたので、とても分かりやすかったです。



ご家庭での食事はもっぱら日本食だったのですが、現地の方たちとの交わりの中でメキシコ料理にも親しまれました。その中で、今回タコスとマンゴーとパンの冷凍デザートを紹介していただき、試食させていただきました。会場にはとうもろこし粉でできたトルティージャの香ばしい香りがいっぱい。40人を超える参加者は試食開始ですぐに行列ができました。大人から子供までメキシコの味を楽しみました。翌日の中日新聞にはその様子が写真で



メキシコ料理の試食

紹介されました。タコスは4種類の具を好みでいただき、辛味も好みで調節、とってもおいしかったです。デザートもすぐ手に入るもので作られ、また自分でも作ってみようと思いました。山岸先生には帰国後も数学教育にお忙しい中、講演とお料理ありがとうございました。



講演会終了後の記念撮影  
(メキシコ衣装の試着も?)

**KIFAイベント風景**



日本語教室書き初め会



町民夏祭り  
(盆踊り)



## Communicating in English - Katakana English

ジョン山本 (英会話教室講師)



ジョン山本先生

Learning English in Japan aside from the English that is taught in junior high school and highschool can be fun and often, rewarding. Being able to communicate in English, or just using English, can open many new doors and provide memorable experiences in one's life as well.

Most people who grew up in Japan have been exposed to six years of English education, most of that being grammar and writing. Only recently has listening and active communication become a part of the curriculum. The way English is being taught is now slowly changing but still needs a lot of improvement as English education in schools is still directly correlated to test scores and not communication. There are no communication tests, just grammar and listening tests where students must mark answers on a marksheet or test paper. In order for communication to really be stressed in schools is for the test to be an interview or communication test and not a paper test.

There are many who now study English at conversation schools, in small groups, at community centers, or in private lessons. All of these are good as the main focus is communication, building vocabulary, and improving listening skills. To be able to communicate, you need to be able to hear

and understand what the other person is trying to say so listening skills are important. You will need vocabulary to communicate what you want to say. By saying it in your native language won't help unless you can gesture or draw a picture really well. Grammar is not all that important in communication, the main thing is to get your point across, making the other person understand what you are trying to say.

To improve your English communication skills, you have to know what you want to say and then try to communicate it by using the words you know and by effort in trying to get your point across. Do not use katakana English. If you want a hotdog, don't say "a hohtto dohggu pleazu" but instead say clearly "a hotdog, please". Speaking louder will not help. I had someone try to communicate something to me once using katakana English and I couldn't understand it the first two times he said it. The third and fourth time he said it really loudly. He thought by saying it louder I would understand it. The problem was that I wasn't deaf or my hearing was weak but that I couldn't understand katakana English.

In Japan you may be able to use katakana English to speak to a Native English speaker and he or she will probably understand as most have been here for some time and be used to it. However, if you go abroad, more than likely.....katakana English won't be understood. Try to use standard English, and not katakana English, when you go abroad.

### KIFA 英会話教室へのお誘い

★★ 講師：ジョン山本先生、第2、4日曜（月2回）、中央公民館 ★★

★ クラスA：午前9:00～10:30、クラスB：午前10:30～12:00 ★

会費は月 ¥2,000 程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは現在、受講者を募集中です。詳細、申し込みは担当：青木猛、TEL：0567-31-1216 まで。

磯部正弘

昨年の2月、「かにえ国際交流友の会」からの1,000ドル（当時のレートで1,115,000チャット）をお預かりして、ピンディアの町の隣（ハイホという空港に近い）にあるティアコーン村の小学校を訪れました。学校の授業は終わっており生徒はいませんでした。校長先生がみえ、話を伺



磯部さん（右から2人目）

いますと、その小学校には200人以上の生徒がおりますが、一つの大きな部屋の中で全員が授業を受けているので、部屋

の間仕切りがほしいとのこと。また、生徒数に比べて机や椅子が足りないとのこと。予算を伺い、1,115,000チャットの内、800,000チャットを寄付いたしました。残りの315,000チャットで文房具を求め、小学校へ届けました（右の写真）。

今回訪れました7月は現地では雨季です。この小学校では電気が通っていません。雨季の季節では雨が降っていても教室内は薄暗く、とても良好な環境とはいえません。なんとか電気をつけて明るい環境の中で勉強してほしいと考えますが、残念なことにこの村では、まだ政府から電気を使用する許可がおりていないとのこと。暗いときには電気をつけて明るい中で生活することがあたりまえの私たちにとって考えさせられます。



本日ミャンマーから戻ってまいりました（編注：2006.7.前文の後半部に書かれてある訪問を指す）。数年前からミャンマーの恵まれない子供たちに数々のご支援を頂きまして有難うございます。先生や生徒は喜んでおられるのですが、現地の一部の人々の中には快く思わない方もみえるので支援の仕方も考えなくてはと思います。

今回、ヤンゴン滞在中にミャンマー人の友達の知人でボランティア活動をしている方の紹介で、エイズに感染した子供たちの託児所施設を訪れました。ヤンゴンの中心部から約3、40分のダコン町にある、トウカエイションという名前の施設です。約1年前の開設で、現在男の子が7人、女の子が6人の計13人の子供たちが生活しています。一番大きい男の子で12歳、一番小さい女の子で2歳。5人のボランティアの方々に、世話をしているとの事です。この施設は政府の援助を受けておらず、全て民間の方からの援助で運営され、現在建物を増築中ですが、資金が十分でなく、現在は建築がストップしています。その他、食料費：医療費など不足



しています。皆様でご検討の上、了解していただければまたお手伝いさせていただきます。

（編注）KIFAは磯部さんの協力で、来年度に上記施設への金銭その他の援助を行う予定です。

**訃報** ドイツ・リュウベックのクリスチアン・オーハイムさん（前号No.13に蟹江滞在記を掲載）が昨年12月25日オーストラリアのタスマニア島を旅行中に突然亡くなりました。ハンブルグからのホームステイ訪問団のメンバーと



して来られ、また私達KIFAメンバーがドイツに行った時にはリュウベックを案内していただく等、お世話になりました。謹んで哀悼の意を表します（会長）。

← 榊田さん宅に滞在中、門扉を直すクリスチアン

### KIFAポルトガル語教室へのお誘い

★★ 講師：渡邊ネチ先生、1回/月（土曜日）、中央公民館 ★★

★ 先生のクラス（第4土曜日）：午後2:00～4:00、自主クラス（月1回）：午後7:30～9:00 ★

会費は月¥3,000程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは現在、受講者を募集中です。詳細、申し込みは担当：中西久子、TEL：0567-95-4749まで。

## 「KIFAのイベントに参加して」

山田初美（企画情報課）



クリスマス会でサンタになった山田さん

**グ**ローバル化の進む現代社会で、外国の文化や言語に興味がある方、外国人の友だちをつくりたい方は決して少なくないはずです。蟹江町や町周辺にも、多くの外国人が住んでいますが、直接接する機会がないというかたは案外多いのではないのでしょうか。そんな方

はぜひ一度、KIFAのイベントに足を運んでみて下さい。きっと何かが見えてくるでしょう。

昨年KIFAのイベントに参加して、思い出したことがあります。それは学生時代、留学先の台湾でお世話になった人々のことです。ホストファミリーをはじめ学校の先生や友人、近所の人たちまでが皆、言葉もままならない私にとっても親切にしてくれました。運が良かったと言ってもよいほど人に恵まれた私は、多くの親切な方に支えられて、充実した留学生活を送ることができました。感謝の気持ちは帰国後も消えることなく、お礼をし尽くせず申し訳ないという気持ちがいっぱいであった頃、ちょうどKIFAのイベントに参加する機会がありました。

そこで日本に住む多くの外国人と出会って、今まで受け入れられる側だった私が、受け入れる側の立場に変わりました。外国人の方と話してみても、私が台湾で感じた時のような、異文化の中での戸惑いや悩みなどを抱える外国人が、少なからずいることに気づきました。私は、そのような人に少しでも「日本はいいところだ」と感じていただけたらと思います。そう感じていただくこと、そして、そのためには自分は何ができるかと考えていくことが、私が異国の地で受けた恩を返すことにつながるのではないかと思います。

### 町民夏祭り（8月）での出店



## 「団塊の世代、諸君！来たれ」

若山高義



**ボ**ク、蟹江に生まれて育って、ゲ〜、いつしか還暦過ぎた。定年退職して、「退屈な町だな〜、ヒマ潰すにや〜」「金かからず遊んでくれる便利なトコないか〜」ということで、あった！あった！「かにえ国際交流・日本語しゃべろう会」。まず「国際 (International)」という名前が格好いい。パスポート1回しか使ったこと無いんだ。つぎに「交流 (Friendship)」というのも退職後の家庭内での孤独で絶望的境遇に温かい。外国語を全然話せなくてもいつしか「先生！先生！」と毎週呼んでもらえるからまた心地よい。タバコも吸わないから節約になる。おやつも沢山出るし... 女の方多いし... ホント、得な会を見つけたもんだ。

しかし「好事魔多し！」で、男性が少ないので老人でもこき使われる。町民祭りの出店の時なんかは、挫傷で翌日寝込んでしまった。やったこと無い「ホームページ」作成まで引き受けて徹夜の連続。おかげで余生がだいぶ短縮。しかし感激も多い。街で女生徒にウインクされたり、チョコもらったり... 明るくなってゆく人達を見るのは楽しい。日本語堪能な外国人に日本語の基本教えられたりして... さあ、団塊の世代、諸君！来たれ！

## 日本語教室ボランティアをして

深山加代子



**私**は37年前、蟹江ライオンズクラブから米国に派遣された第一期生の交換学生でした。当時まだ日本人観光客が珍しかったカリフォルニア州で、それは温かい歓迎を受けました。その時のホームステイファミリーとは今でも交流があります。

「言葉や顔が違っていても心は同じ」という思いを強くして日本に帰って以来、いつも外国の方に温かく接したいと思っています。今、外国の方に日本語を教えるボランティアをしています。その国について教えていただくことも多く、毎週楽しみです。こんな小さな交流の輪が沢山増えていったらいつか戦争のない世界になるのではないのでしょうか。KIFAはそんな大きな夢をもっている人達の集まりだと思います。

世界の国旗：マレーシア



14本のすじと14稜星は国を構成する14州を示す。黄色は古くからの王朝の色、月と星は多くの国民の宗教である回教の象徴、青・白・赤の3色はイギリスの国旗の色に由来している。

KIFAイベントボランティア募集

右記の各行事、イベント等でお手伝いして頂ける方を募ります。各役員の方まで声をかけて頂ければ幸いです。よろしくお願いいたします。

2007年度の年間行事予定(確定分)

日時	行事
2007年4月15日	総会、懇親パーティー
6月10日	親善ボウリング大会
8月12日	蟹江夏まつり参加
10月6日	蟹江秋まつり参加
12月9日	クリスマス会
2008年2月17日	国際交流関連講演会
3月末	会報(No.15)発行

KIFA主催通年教室(講座)：  
日本語教室(外国人向け)、英会話教室  
ポルトガル語教室、(本文中に案内あり)

国際支援活動

KIFAでは、「町民祭り」出店の利益金から、「インドネシア・ジャワ島大地震」義援金として¥50,000を、中日新聞蟹江通信部を経由して送りました。また、本文中にも書いてありますが、来年度はミャンマーのHIV感染児童救援施設に援助金を送る予定です。

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企業会員

(株) アイエス	蟹江住宅設備(株)	甘強酒造(株)
(株) 鈴鋼製作所	(株) 東洋工機	

賛助会員

宇佐美自転車商会	(株) 片桐銘木工業	共同建設(有)	(株) 鋼誠興業
西光寺	(株) 鈴鋼化成	(有) ダイアン	月星歯科クリニック
東海興業(株)	日光鋳工場(株)	フミン加工(株)	松屋呉服店
丸信製粉(株)	(有) 宮長食品	もへの寿司	山田栄子

KIFA ホームページ <http://kifa.web.infoseek.co.jp/>

☆☆ 編集後記 ☆☆

今会報は内容的に如何でしたか。ジョン山本先生の英語原稿、訳を付けず原文のまま載せたことにご批判もあるでしょうが、ぜひご自身で原文のニュアンスを理解するようチャレンジしてみてください。なお、会報全般(デザイン、レイアウト等)へのご意見をお待ちしています(ふ)。

発行：かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保

TEL: 0567-95-9724 / 052-872-5855

E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場総務部企画情報課内

〒497-8601 蟹江町学戸3丁目1番地

TEL: 0567-95-1111, FAX: 0567-95-9188